

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	司法研究科
大項目	10 国際関係
中項目	
小項目	10.0.1 国際交流(国内外における教育研究交流)についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	10.0.2 国際交流(国内外における教育研究交流)を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 隔年で、交流協定校、その他海外教育研究機関等から最低1人の教員(客員教員A)を受入れ、授業担当をしてもらう。	→ 国際交流協定校、その他海外教育研究機関等からの教員の派遣(客員教員A)受入れ数。	D	C	C	C	C
2. 隔年で、本研究科教員を最低1人を交流協定校、その他海外教育研究機関等へ派遣する。	→ 国際交流協定校、その他海外教育研究機関等への本学教員の派遣数。	B	B	A	A	A
3. 毎年、国際交流に関する講演会、交流会を実施する。	→ 国際交流に関する講演会と交流会の実施回数。	D	C	C	C	C

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 国際交流委員会を中心に取り組み、毎年教授会時に適任者がいれば推薦するよう全教員に打診している。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 長らく受け入れ実績はない。海外から優秀な教員を招聘して授業を担当してもらうことは、学生にとって高度な研究成果に触れる良い機会であると考えられるが、司法試験合格が大変困難な状況では学生は司法試験突破に向けた勉強にしか目が向いていないのが現状である。課題は本取組へのニーズを再検証することである。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 広く知識を吸収して研究を深めていく一般的な大学院とは発想を変える必要がある。本取組についても、日本の法曹を養成する専門職大学院という目的に基づいて、それに寄与するような適切な人材がいれば、本研究科カリキュラムに盛り込んで受け入れるべきだと考えている。	☆
		その他	☆

目標2	A	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 本学の留学制度に則って、本研究科教員を海外教育研究機関等へ留学させている。選考は本人からの申し出によるものであるが、本研究科の教育活動に支障をきたさないよう配慮しつつ積極的に送り出している。本研究科交流協定校についても必要にお応じて派遣している。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か ロースクール開設当初は留学に送り出す余裕はなかったが、開設後数年が経過し、本研究科の運営が安定してからはほぼ毎年のように派遣できている。本研究科の特性上、各教員は教育活動に重点を置いた生活を送っているが、留学で海外の高度な研究に触れることにより、研究のブラッシュアップをできる効果がある。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 本研究科の教育実施体制を低下させないように注意しつつ、今後も積極的に派遣していく。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
目標3	C	<p>Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 国際交流委員会では、留学希望者に今後の相談に応じることにした。</p> <p>Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 本研究科は留学協定校があるため、留学に関心を持って本学に入学してくる学生がいるし、また、個人的な問い合わせや相談をもちかけてくる学生も存在する。この人たちに説明会等で具体的イメージをもってもらうことを新たな対応課題としている。</p> <p>Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 留学制度を形骸化させないためにも、学生のニーズに注意を払いつつ、実質的な説明の機会について企画していきたい。</p> <p>その他</p>	☆ ☆ ☆ ☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【司法研究科】			単位	2009	2010	2011	2012	2013	2014	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	5	5	5	5	5	5	・5/1現在	
指標2	国際交流協定締結国数		国	1	1	1	1	1	1	・5/1現在	
指標3	海外からの受け入れ学生数	国 数	国	—	—	—	—	—	—	・累計数	
		外国人留学生	正規	人	0	0	0	0	0	0	・※5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 ・特別学生を含む
			交換	人	—	—	—	—	—	—	・累計数 ・交換は正規以外とする。 ・大学院短期留学を含む
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	・外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への派遣学生数	国 数	国	—	—	—	—	—	—	・累計数	
		人 数	長期	人	0	0	1	0	0	0	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	・海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	1	1	1	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	1	0	2	2	1	1	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	—	0	0	0	0	0	・累計数 ・春・秋の合計	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)